

人が大好き。  
人の心・気持ち・感情を表現したい。



受賞作品「秋に行けば」

大きさは約90cm×120cm。シルクスクリーンという版画技法で制作。

途中で煮詰まったり、思いが変わったり、紆余曲折を経てやっとの思いで完成した作品です。不安や悲しみ、怒りを、実際に家族など周りの人の顔で網状の型をとって、重層的に配置して表現しました。版画はまだ始めて

今回、大変重みのある賞を受賞することができ、とてもうれしく思う反面、責任の重さも同時に感じています。この作品は、イラク戦争をはじめあ

らゆる紛争で苦しんでいる世界の人々を思い制作しました。まず構想を練って取りかかるまでに長い時間を必要としました。そして一度作り始めても、



浅井小夜子さん(73歳・大東町)

第83回春陽展の版画部門で、最高の栄誉となる春陽会賞を受賞。

10年足らず。それまではずっと油絵をやっていました。そのころから、わたしが基本的にいつも描いてきたのは人間の姿。やはり人が大好きなんです。ね、怒り、笑い、感動など人間にはさまざまな感情があります。見たままの風景や素材はあくまでヒント。そのまま描くだけでなく、自分の心、気持ち、そして感情を表現することが大切だと思って取り組んでいます。

そして、つくづく思うこと。それは、わたしがこうして作品を描くことができるのは、平和だからなんです。簡単なことですが、それはとても重要なこと。これまでも、スケッチのためネパールやモロッコなどを旅しました。今年もクローアチアへ行く予定です。こうして世界中を旅することができるのは平和な時代である証拠。これからも平和な世界を祈りつつ、大好きな絵を描き続けていきたいと思っています。

## 筆者のつぶやき

「部屋で油絵などを制作していると、においがきつかったり、壁などが汚れたり。また思い通りに制作が進まない、少し感情的になることもあるんですよ。そんなときいつも支えてくれたのは家族、とりわけ旦那さんだったそうです。そんな夫・満さんの一言「女性はやっぱり元気だね」。